

京都大学大学院教育学研究科E.FORUM
探究力育成のための
カリキュラムと評価

2015年3月28日
京都大学 西岡加名恵

1. 今回扱う「探究」の範囲
(1) 2008年改訂学習指導要領の学力像

- ①習得 ・ 基礎的・基本的な知識・技能の習得
- ②活用 ・ 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等
- ③態度 ・ 主体的に学習に取り組む態度

教科 習得 活用 総合 探究

パフォーマンス評価、ポートフォリオ評価
〔学習指導要領解説 総合的な学習の時間〕2008年、
〔児童生徒の学習評価の在り方について（報告）〕2010年〕

(2) 教科における「探究」：パフォーマンス課題
○ 中学3年：社会科「経済政策を提言しよう！」

「あなたは国会議員です。まもなく衆議院議員選挙が行われます。テレビFYでは選挙に向けて経済政策に関する連続討論番組を行うことになりました。各回のテーマは、『経済格差の縮小』『環境政策』『食料政策』です。自分が登場したい回を1つ選び、『何が問題なのか、その問題を生じさせている原因は何か』を説明するとともに、『どうすれば、問題を解決できるのか』について政策提言を行いなさい。また、他の議員と論争し、一般視聴者からの意見や質問に答えてください。さらに、その内容を生かして、政策提言レポートを完成させてください。」

3

(三藤あさみ・西岡加名恵『パフォーマンス評価にどう取り組むか』日本標準、2010年、pp.31-32。ただし、課題文には一部加筆している。)

◎教科における「探究」：パフォーマンス課題
○ 中学3年：理科

「現在、日本には多くのテーマパークが存在しています。中でも派手な動きをするアトラクションが人気ですが、昨今のエネルギー事情や地球環境問題を考えると、できるだけ環境に優しいアトラクションが望まれています。そこで、アトラクションを動かしているエネルギーを探り、そのエネルギーの損失を少なくしたり、エネルギーを再利用したりする工夫を加え、自分の考える環境に優しいアトラクションを考案し、提案しなさい。」

(下川智紀「導かれるエネルギー」田中耕治編著『パフォーマンス評価——思考力・判断力・表現力を育む授業づくり』ぎょうせい、2011年、p.161)

4

※今回、パフォーマンス課題は扱いません。

<参考> 京都大学のオープン・コースウェア
→ 教育学部 → 教育課程論 I・II

● 教育課程論 I, 2014
「パフォーマンス評価とポートフォリオ評価法」

● 教育課程論 II, 2013
「学力評価とカリキュラム設計」

1. 教育評価の基本用語
2. 目標と評価方法の対応
——パフォーマンス評価とは何か
3. パフォーマンス課題の例
4. パフォーマンス評価の普及
5. パフォーマンス課題を作る
6. ルーブリック作りから指導の改善へ
7. 高等学校の実践例
8. 学力評価計画の立て方
9. 看護教育におけるパフォーマンス課題
10. ポートフォリオ評価法

課題B パフォーマンス課題を作る
課題C 学力評価計画を作る
課題D ポートフォリオを設計する

I : <http://ocw.kyoto-u.ac.jp/ja/03-faculty-of-education-jp/14-9233001>
II : <http://ocw.kyoto-u.ac.jp/ja/03-faculty-of-education-jp/13-9234001>

(3) 「総合的な学習の時間」における学習の姿

探究的な学習における生徒の学習の姿

■ 日常生活や社会に目を向け、生徒が自ら課題を設定する。

■ 探究の過程を経由する。
①課題の設定
②情報の収集
③整理・分析
④まとめ・表現

■ 自らの考えや課題が新たに更新され、探究の過程が繰り返される。

6

(文部科学省『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』2008年、p.16)

2. 「総合的な学習の時間」の指導と評価のポイント

- 「問題解決のサイクル」の繰り返し
- 長期的な(学年発展の)指導計画
- 大テーマ
 - ～ 魅力的か? 広がりはあるか?
 - ～ 体験的に学べるか? 深まりそうか?
- ポートフォリオの活用
- ポートフォリオ検討会
- 一貫した評価の観点
- 教科と総合の相互環流

7

3. カリキュラムの例

(1) 京都市立堀川高等学校

HOP
1年 前期

- ・ 探究の「型」を学ぶ。
- ・ この期間では、どの分野を探究する上でも必要となる探究の進め方や、表現の仕方を学ぶことを目標としています。探究活動の進め方や論文の形式・書き方を学んだ後、論文作成の実習を行います。

STEP
1年 後期

- ・ 探究の「術」を身につける。
- ・ この期間では、実際に探究する上で必要となる課題解決能力の育成を目標としています。ある疑問に対して答えを出す方法は、専門分野ごとに異なります。そこで、少人数講座(ゼミ)に分かれ、分野に固有の研究手法を学びます。

JUMP
2年 前期

- ・ 探究の「道」を知る。
- ・ この期間では、論文作成に向け、HOP・STEPでの学習内容を踏まえ、実際に探究活動を行います。探究活動を進めていく過程でゼミ内やゼミを超えてポスターなどを用いて発表を行い、同級生・TA(Teaching Assistant)・教員よりアドバイスや批判を受けそれを反映して研究を進め、それらの内容をふまえて論文を作成します。

京都市立堀川高等学校「2015学校案内 すべては君の『知りたい』から始まる」p.5, Cf. 次橋秀樹「京都市立堀川高等学校の『探究基礎』を探究する」西岡加名恵編『高等学校における「探究」の指導』2015年3月、pp.33-47

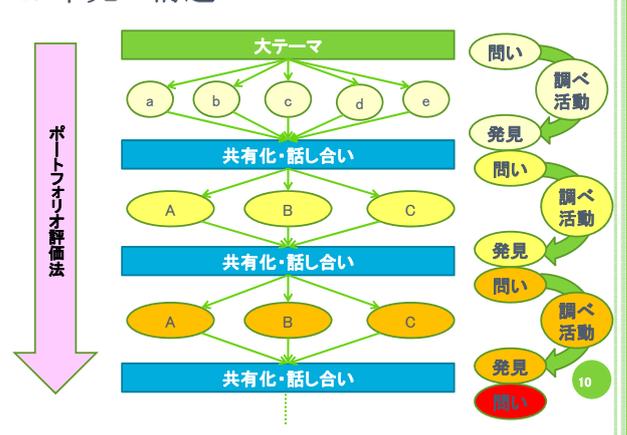
8

(2) 相模原市立谷口中学校 谷口ドリーム学習 3年間の流れ(2001年)

	1 学期	夏休み	2 学期	3 学期
1 年生	「身近な社会」 学習の基礎を築く 全体・単級 5 時間	明 休 休 休 休 休 休 休 休	課題解決学習 学習の基礎を築く 全体・単級 30 時間	課題解決学習 学習の基礎を築く 全体・単級 14 時間
2 年生	「広げ目を高めて」 課題を追究しよう 全体・単級 2 時間	休 休 休 休 休 休 休 休 休	課題解決学習 課題を追究しよう 全体・単級 14 時間	課題解決学習 課題を追究しよう 全体・単級 15 時間
3 年生	「方舟地球丸」 未来へ進出しよう 全体・単級 2 時間	休 休 休 休 休 休 休 休 休	課題解決学習 未来へ進出しよう 全体・単級 16 時間	課題解決学習 未来へ進出しよう 全体・単級 15 時間
年間	ふれあい集会(2時間) ・ 生き方講話(2時間) ・ 歌声集会(2時間) ・ 農業体験(3時間)等			

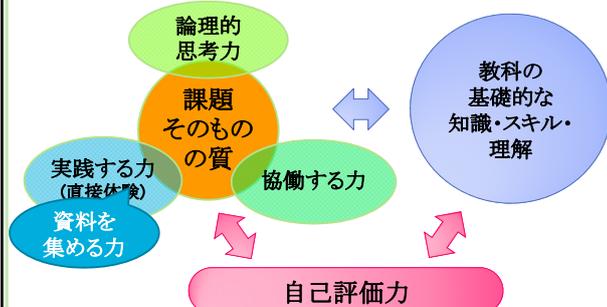
(田中耕治監修『実践!自ら考える生徒たち』岩波映像株式会社、2003年)

4. 単元の構造



10

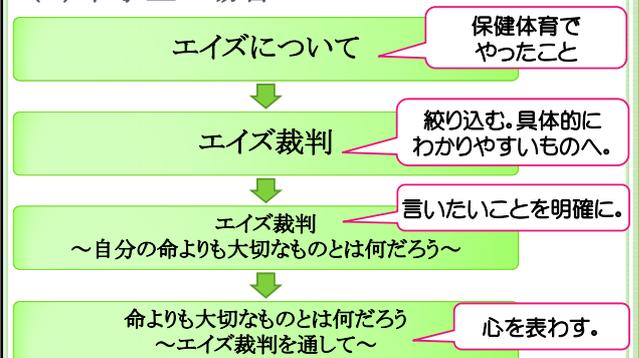
5. 探究力を評価する際の観点



(宮本浩子・西岡加名恵・世羅博昭『総合と教科の確かな学力を育むポートフォリオ評価法・実践編』日本標準、2004年、pp.194-195)

11

(1) 中学生の場合



(相模原市立谷口中学校の実践、2002年度、Cf. 田中耕治監修『実践!自ら考える生徒たち』岩波映像株式会社、2003年)

12

(2) 卒論指導の時の評価の観点(検討中)

	課題そのものの質	資料 収集力	論理的にまとめる力 (資料を読み取る力)
1	漠然とした問題意識、 対象設定	概論書	根拠の弱い意見、 資料の羅列
2	ある程度、対象限定 がなされてくる	専門書	資料を正確に 読み取り、考察
3	研究的な論点を踏ま えた課題設定	論文	論旨が一貫しており、 すっきりとまとまっ ている。裏付けとなる 資料と整合的
4	先行研究を乗り越え るような知見	一次 資料	章ごとに展開して いく構成 13

6. ポートフォリオ評価法

(1) ポートフォリオ評価法とは

- ポートフォリオ： 学習者(児童・生徒や学生)の作品や自己評価の記録、教師の指導と評価の記録などを系統的に蓄積していくもの
- ポートフォリオ評価法： ポートフォリオ作りを通して、学習者が自らの学習のあり方について自己評価することを促すとともに、教師も学習者の学習活動と自らの教育活動を評価するアプローチ

(2) 所有権 (Ownership) :

収める作品や評価基準の決定権

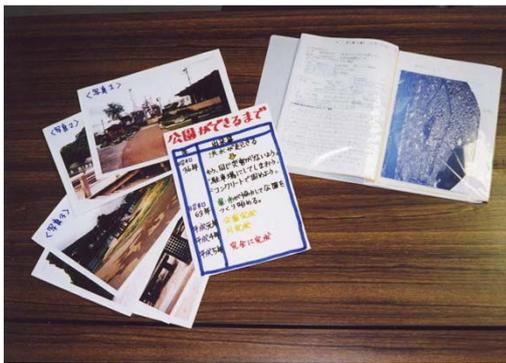
学習者 ←————→ 教育者

最良作品集
ポートフォリオ

基準創出型
ポートフォリオ

基準準拠型
ポートフォリオ 14

◎基準創出型ポートフォリオの例



(宮本浩子先生提供。宮本浩子・西岡加名恵・世羅博昭『総合と教科の確かな学力を育むポートフォリオ評価法・実践編』日本標準、2004年も参照)

(3) ポートフォリオ評価法に取り組む上でのポイント

- ① 学習者と教師で見通しを共有する。
 - なぜ、作るのか？ 意義は何か？
 - 何を残すのか？
 - いつ、どの期間で作るのか？
 - どう活用するのか？
- ② 蓄積された作品を、編集する(整理・取捨選択する)。
 - ワーキング・ポートフォリオからパーマネント・ポートフォリオへ必要な作品を移す。
 - 検討会で見せる作品を選ぶ。
 - 目次を作り、「はじめに」と「終わりに」を書く。
- ③ 定期的にポートフォリオ検討会を行う。
 - 見通しを持つ。
 - 到達点と課題、次の目標を確認する。
 - 成果を披露する。16

◎ポートフォリオ検討会



(宮本浩子先生提供。宮本浩子・西岡加名恵・世羅博昭『総合と教科の確かな学力を育むポートフォリオ評価法・実践編』日本標準、2004年参照)

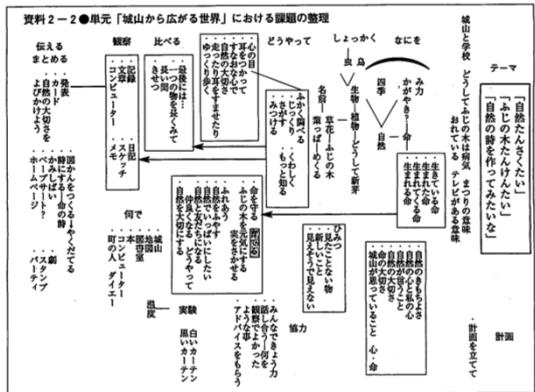
7. 検討会

(1) 検討会の進め方

- ① 問いかけによって、学習者の自己評価を引き出す。
- ② 学習者の言葉に耳を傾ける(待つ)。
- ③ 達成点を確認し、いいところを褒める。
- ④ 具体例の比較を通して、目標＝評価規準・基準を直観的につかませる。
- ⑤ 次の目標について、合意する。
- ⑥ 確認された達成点と課題、目標についてメモを残す。

※一斉授業の形で行うのもOK 16

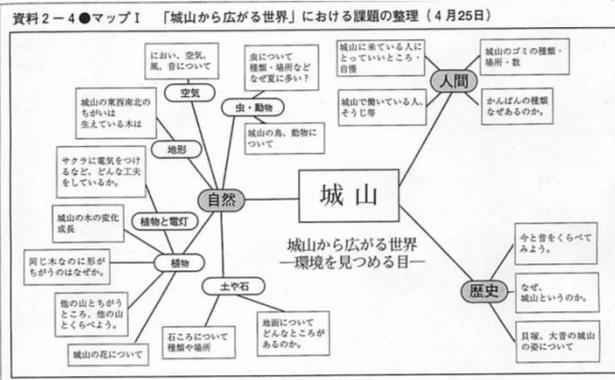
(2)小4・総合：課題の整理



(宮本浩子・西岡加名恵・世羅博昭『総合と教科の確かな学力を育むポートフォリオ評価法・実践編』日本標準、2004年参照)

19

◎小4・総合：課題の整理 →板書



(宮本浩子・西岡加名恵・世羅博昭『総合と教科の確かな学力を育むポートフォリオ評価法・実践編』日本標準、2004年参照)

(3)小4・総合：検討会の様子



(宮本浩子先生提供。宮本浩子・西岡加名恵・世羅博昭『総合と教科の確かな学力を育むポートフォリオ評価法・実践編』日本標準、2004年参照)

21

◎小4・総合：検討会での対話

T: [自分のノートのメモを見ながら]城山にどんな虫がいて、どんな成長しているか、どんな暮らしているか、それを調べたいということだったね。実際やってみて難しいなと思ったことは何だった？ [しばらく待つ。B児とA児は、自分のポートフォリオを見直し始める]一番の悩みは何？

A: 蝶ばかりで、他の虫も探してみただけど、死んでいたりして、見つからなかった。

B: [ポートフォリオの中から城山の地図を取り出して指差しながら]先生、だいたいこういうところをずっとまわってきたけど、まずここには何にもなくて、ここは普段は蝶とかカナブンとかいるところなんだけど、最初に行った時にはいなくて蝶一匹もいなかったから、だからここはまだいないのかなということ諦めて、下に行ったんだけど…。[中略]

T: なんか、蝶の動きが気まぐれで[ノートにちょっとメモを取る]、調べることができないという感じなんだね。

B: そう。[A児もうなずく]

T: 調べるための裏ワザがあるね。色々考えることができそうだね。

(宮本浩子先生の実践。西岡加名恵『教科と総合に活かすポートフォリオ評価法』図書文化、2003年、p.125)

22

◎小4・総合：検討会での対話(つづき)

T: [Cの「わかった」というつぶやきを聞きつけ]わかった？ どんな裏ワザ？

C: わかったっていうか、多分、蝶が出たときに温度測つていて、でな、また次に見つけたときにも温度測つていて…

B: [息をのんで]それでだいたい見当をつけるのか！

T: 今、Cさんが言ってくれたことは、一つの方法だね。[D児、手を挙げる]D君から意見？ [D児、うなずく]はい。

D: [勢いづいて]スイカとか食べるものの食べ方とか吸い方なんだけど、餌とかでおびき寄せて、虫眼鏡で口はどんな風とかを書いていってもいいと思う。

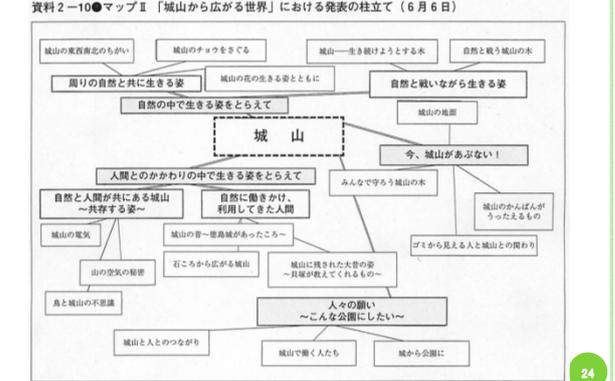
B: ああ、そうかあ！

T: なるほど。実は、D君が言った絞り込み方と、Cさんが言った絞り込み方と、B君たちが考えていた絞り込み方とでは、研究のねらいが違うよ。D君が言った吸い方とかを観察するっていうのは、一匹の虫の食べ方とか特徴や動き。B君たちの、虫がどこに現れるか、温度とか風とかとの関係などだね。[後略]

(宮本浩子先生の実践。西岡加名恵『教科と総合に活かすポートフォリオ評価法』図書文化、2003年、p.125)

23

(4)小4・総合：課題の整理 →板書



(宮本浩子・西岡加名恵・世羅博昭『総合と教科の確かな学力を育むポートフォリオ評価法・実践編』日本標準、2004年参照)

24

(5)「瀬戸内の環境を考える高校生フォーラム」



←口頭発表

ポスター・セッション



(本宮裕示郎『瀬戸内の環境を考える高校生フォーラム』の取り組み)西岡加名恵編『高等学校における「探究」の指導』2015年3月、pp.85-98)

◎「瀬戸内の環境を考える高校生フォーラム」

ポスター・ディスカッション



(本宮裕示郎『瀬戸内の環境を考える高校生フォーラム』の取り組み)西岡加名恵編『高等学校における「探究」の指導』2015年3月、pp.85-98)

8. 教科との連携

(1) 京都府立園部高等学校

第2学年課題研究の流れ

テーマ設定:各教科による事前学習(H26年度は以下の教科が参加)
地歴科・国際科・理科・芸術科・国語科(「総合的学習の時間」担当)

生徒一人一人が自分のテーマと問いを持ち、課題学習への取り組み方を学ぶ

研修旅行(フィールドワーク):担当は第二学年部を中心とした引率団
生徒が自分のテーマに応じて体験、見学、調査等を行う

英語によるパフォーマンス課題(英語科)
「次年度の研修旅行に向けて後輩へおすすめスポットを英語で紹介してください」

レポート作成から発表へ:(国語科・国際科・第二学年部・学習支援部)
各自のテーマについて日本語によるレポートを作成したのち、それをポスター形式にまとめ、クラスで発表する。

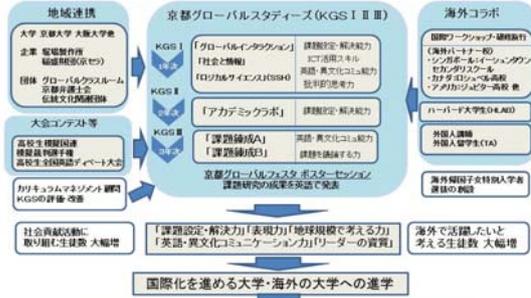
第二学年課題学習発表会(クラス代表生徒によるポスターセッション)

(田中容子先生提供。徳島祐彌「京都府立園部高等学校」課題学習プロジェクト」西岡加名恵編『高等学校における「探究」の指導』2015年3月、pp.70-83)

(2) 京都府立嵯峨野高等学校

京都府立嵯峨野高等学校 スーパーグローバルハイスクール

地域連携・海外コラボ型「京都グローバルスタディーズ」によるリーダー育成



(嵯峨野高等学校ホームページhttp://www.kyoto-be.ne.jp/sagano-hs/9-SGH/90SGH-top.htmlより。 Cf. 中西修一朗「京都府立嵯峨野高校におけるSGHの取組」西岡加名恵編『高等学校における「探究」の指導』2015年3月、pp.56-69)

(3) 教科からの「問い」の発展: 中学・社会

社会科全体を貫く包括的な「本質的な問い」

(例) 私たちはどうすればより良い社会を形成することができるのか?

地理的分野を貫く包括的な「本質的な問い」

(例) 人々は、どのような地理的条件のもとで、暮らしているのか? それはなぜか?

歴史的分野を貫く包括的な「本質的な問い」

(例) 社会はどのような要因で変わっていくのか?

公民的分野を貫く包括的な「本質的な問い」

(例) どのような政治・経済の仕組みが良いのか?

単元ごとの「本質的な問い」

(例) 民主主義とは何か? 民主的な国家とはどのようなものか?

主発問
主発問
主発問
主発問
主発問

単元ごとの「本質的な問い」

(例) 経済とは何か? 人々が幸せに生きる経済のしくみはどのようなものか?

主発問
主発問
主発問
主発問
主発問

(三藤あさみ・西岡加名恵『パフォーマンス評価にどう取り組むか』日本標準、2010年)

◎ 中学・社会 「卒業研究レポートを書こう！」

<課題例>

- 途上国の為に、今、日本ができることは何か?
- なぜ、途上国では教育が受けられないの?!
- なぜ医療が安心できないものになったのか?

(Cf. 三藤あさみ・西岡加名恵『パフォーマンス評価にどう取り組むか』日本標準、2010年)

